

## つぶやき

このコーナーでは各県の相談に対するとりくみ等を紹介していきます。

## 【取組紹介】

## 秋田県教職員組合執行委員 小林 久美子

一面に広がる田んぼに水が張られ、青い苗が気持ちよさそうに風に泳いでいる・・・秋田の春の風景は本当に美しいと思う瞬間です。秋田と言え、何を思い浮かべるのでしょうか。

「なまはげ」「きりたんぼ」「秋田美人」いろいろありますが、最近の秋田の観光資源となっているのが「学力全国一」です。毎年、トップクラスに入るものですから、秋田型の授業（探求型、めあて・まとめの提示等）を見学するために、他県から「学校視察」という名目で訪れる団体が年々増加しています。最近では、某航空会社と県内のA市が連携して秋田の学校視察をコースに取り入れたツアーを企画。さっそくその参加者が秋田に来ています。

「学力全国一」とは、文部科学省が作成したテストの平均点を出したら、一番高いところが秋田県だった、と言う話です。つまり点数です。秋田県は点数をあげるために様々なことにとりくんでいます。5年生の春休みは、テストに向けた宿題を山のように持たされます。新学期が始まれば、毎日テストのための過去問等の練習をします。12月には、県の学力学習状況調査で同じことを繰り返します。これで点数はばっちりとなるようになります。秋田型の授業を

否定するわけではありませんが、それが即点数につながっているとは思えないのです。また、そこでまじめに授業に向かう子どもたち、その子どもたちを育てている家庭や地域の存在は全く語られず、型だけがアピールされているのも腑に落ちません。

あるアンケートにこんなことが書かれていました。「学力テストの練習問題を『どんなにがんばっても解けない』と泣いている子どもがいた」自尊心を傷つけられた子どもの気持ちを考えると本当にいたたまれません。

秋田の春には、机に向かって「できるまでやりなさい」なんて言われて必死に勉強している子どもたちの姿は似合いません。新緑の山々と青々とした田んぼ、新たな学年が始まり目を輝かせている子どもたちこそがふさわしいと思う今日この頃です。

